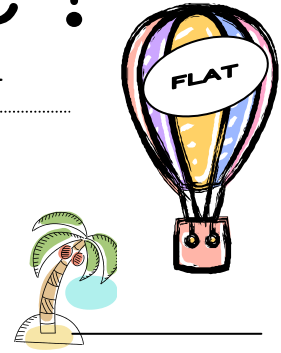


# ふらっと.come!

平成 22 年 9 月 1 日 第 16 号

発行者 船橋福祉相談協議会 「ふらっと船橋」  
〒273-0011 船橋市湊町 2-1-5 MIIビル 101R  
TEL 047-495-6777 FAX 047-495-6776  
HP <http://www1.ocn.ne.jp/~flatcome/>  
Email flat-funabashi@key.ocn.ne.jp



## 理事会の議論から

【船橋福祉相談協議会 会長 宮代 隆治】

去る 6 月 30 日(水)に今年度第一回の理事会が開催されました。議案は「新規入会会員及び副会長の件」と「理事会出欠に関する件」及び「講演会について」の 3 題でした。

先ず、新規会員については前田さんが退会ということとなり、新たに県条例の広域専門相談員に着任された野口さんが、個人会員として入会されました。

次に、退任の意思を示された佐藤彰一さんの後任をどなたにお願いするのか。この船橋福祉相談協議会設立の最初から深く関わりをもって頂き、いつも大きな力で「ふらっと船橋」を支えて下さった氏の退任を惜しむ声は、当然大きなものです。但、辞任の決意は固くご意向の翻ることはありませんでした。船橋自閉症協会の所属でいらしたもので、そこで同会現会長の高尾氏に副会長就任を依頼しました。公務ご多忙とのこと、運営委員会等にコンスタントに出席できるかどうか…、との高尾氏からのお返事。そこは、同会事務局長さんにも代理出席をお願いして、氏との意思の疎通を密に図って頂くことで了解。理事互選により、高尾氏の副会長就任を議決して頂きました。

残る問題は、佐藤氏のこれからの同協議会や「ふらっと船橋」へのご協力について、何らかの形で担保ができないものか、ということです。

理事会開催時の代理出席の扱いについて、が懸案となっていました。このことに関する細かな規程が存在せず、今後定款変更も視野に実情を踏まえた形に改正すべき、理事会での検討を進めることとなりました。この時理事の多くから、当事者を含め様々な立場の人達が自由に活発に意見を言いながら、参加できるのがこの会の特徴であった。この雰囲気は是非残して頂きたいとの発言がありました。

講演会については、11 月 6 日(土)、高根台公民館を会場に予定して、時期に応じたテーマを設定して実施することを確認しました。船橋市の援助を頂戴しながら皆で立ち上げた「ふらっと船橋」が設立され 4 年が経過、運営を巡る環境の変化はありまじょうが、設立目的の本意は生かされなければなりません。

## 副会長 新任のごあいさつ

【船橋福祉相談協議 副会長 高尾 英彦】

このたび、ふらっと船橋の仲間に入れて頂きました、高尾英彦と申します。自己紹介として、私の立場とか考えていることなどを書かせていただきます。

1963年兵庫県に生まれ東京で育ち、1986年に社会人となり、銀行員から転職して、現在HONDAのグループ会社の経理マンです。結婚を機に1995年から船橋で暮らしています。

子供は、1998年に生まれた男児です。3歳のとき、自閉症であることがわかりました。それ以来、自閉症、障害、療育、福祉、などという単語で頭の中がいっぱいな日々を過ごしています。正確に申しますと、寝ても覚めてもいつもそのことが私の真ん中であって、衝き動かされるように、

そのことを、どうしたらいいのだろうかと考えている、と言えます。そんなことをしているうちに、地元の親の会である船橋市自閉症協会の会長となりました（2008年）。

私がかここ数年強く関心をもっていることは、障害者と医療の問題です。自閉症や知的障害のある人は、自身の体の具合を人に正確に伝えることが非常に困難であり、また、検査や治療などの医療行為の意味が理解できず、検査や受診を拒否する（ように見える）ことが多くあります。そういったことから、必要な医療を必要な時に手に入れることができず、「自閉症や知的障害のある人は障害を直接の原因とせず、病気の発見の遅れが原因で、短命である」という報告もあります（出典：小児神経科の権威とされる有馬正高医師らによる論文「不平等な命」）。親としてこの課題解決にチャレンジすべきではないか。そう考え、医療関係者を中心とした有志とともに、7年ほど前からあれこれ取り組んでいます。

なにやら重たい調子になってしまいましたが、私は、トレッキング（低山）、旅行、読書、映画、音楽、お酒など楽しいことが大好きで、とてもものんびりした人間です。ふらっとの皆様には、そんな私を長い目でみてご指導いただけるとありがたいです。どうぞよろしくお願ひいたします。

**「人間関係講座 心のセミナー」を終えて。 船橋中央公民館主催**

① 6月26日（土）人間関係講座～心のセミナー～報告 相談員 新田

内容は「心スッキリ講座～効果的なストレス対処法を見つけよう！～」と題し、そもそも「ストレスとは何なのか？」ということから「ストレスの対処方法＝ストレス・コーピング」についてお話をさせていただきました。この中で、日常のストレスが増大するか軽減するかは、「自分自身どういった方法でストレスにコーピング（対処）するかで決まってくる！」ということを受講者の皆様に伝わればとお話させていただきました。また、当日は「自分を知る」ために普段自分がどういった方法でストレス・コーピングをしているのかを心理テストを用いて振り返っていただきました。30代～80代の受講者という幅広いご年齢ということもあって、私の説明が分かりにくいのではと心配しながらの講座でした。また、終了後のアンケートでは「自分でも気づけない事も新たに発見でき勉強になった」「自分の性格、くせを再認識できた」「ストレスコーピングで今の悩みを人生のスパイスに出来たらと思った」「話の間口を広げ過ぎて焦点がぼけてしまった」等々貴重なご意見を頂くことができました。私自身、この講座を担当させていただき実に多くのことを学ばせていただきました。このような貴重な機会を設けてくださり、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

② 7月3日（土）日常生活の中で気付けそうな身体の不調と対処～報告 相談員 齊藤

始めに主催者から「人間関係講座～心のセミナー」のねらいを伺った。その内容は「現代社会はストレス社会と言われ、心の健康が大きな問題となっている。社会の変化ライフスタイルや家庭環境の変化、職場や仕事の悩みなど、心の健康をおびやかす要因が多くあり、この講座では心身ともに健康な生活を取り戻し、人間関係を豊かにするための方策について学ぶ」とされていた。この内容から、2回目の講座では「日常生活の中で気付けそうな身体の不調と対処」についてをテーマとし、自分の資料を作るためにインターネットや様々な資料を開いてみた所、溢れるほどの情報の多さにまずは驚き、ともすればその情報に自分をはめ込んで病気になってしまうのではないかと思ったほどである。今回の講座は幅広い層の方が参加されていまして、話しの内容には苦慮しましたが「身体の不調と気持ちの不調は外から見えにくいもので、気合いと根性だけでは治りにくい事」また「長引く身体の不調が改善されない場合は自己判断をせずに早めに周囲に相談してほしい」という事は伝えたいと考えました。元来、人前で話す事が苦手な私でこれまで避けて来ましたが、講座を通して様々な立場の方からお話を伺う事ができ、自分自身も気付かなかった事を知る良いきっかけとなり、このような機会を頂き感謝しているこの頃です。

今回は公民館との共同企画に関しては地域資源とのタイアップの一つとして、「ふらっと」としても良い経験と言えるし、地域に関わり地域の役に立つことも相談支援に欠かせないことである。 by 清水。

速報！11月6日（土）PM 高根台公民館講堂にて講演会を企画進行中！！ ～近日詳細発表予定～

